

書評

「JAXA 長期ビジョン JAXA2025

20年後の日本の宇宙と航空」

宇宙航空研究開発機構編(丸善プラネット株式会社) 1000円

2005年4月に「JAXA 長期ビジョン」[1]が発表されたことを知る人は多いだろう。今後20年の宇宙開発・宇宙利用の指針を示したものである。例えば、月面基地、宇宙ステーション、有人飛行などのビジョンや方向性が書かれている。ひょんなことからある大型書店のウェブで、この本の存在を知り、買って見た。この本はその「JAXA 長期ビジョン」を「そのまま」冊子にしたものである。しかし、この本、あまり書店で見かけたことがない。たぶん、これは、日本国民に「JAXA 長期ビジョン」の存在を知ってもらおうということで、出版されたものだと思う。だが、その認知度を思うに、あまり広報の役目を果たしていないような気がする。先日の春の天文学会でのJAXA 関連のセッションで、JAXAの関係者に「どういう意図を持って出版したのか」とその件について、尋ねたところ、「タウンミーティングで意見を聞いてみたい」など、あまり的を得た答えは返ってこなかった。価格は1000円なので、手頃と言えば手頃である。だが、中味は「JAXA 長期ビジョン」をそのまま印刷したものなので、1000円のパンフレットだと思うと、高い気がする。思い切って、無料配布してもよかったのではないか。図も折り込みになっているため、読んで非常に読みづらい。悪く言えばよくある官公庁の刊行物と同じ装丁である。

ここでは、書評ということで「JAXA 長期ビジョン」の中味について詳しくは触れないが、5月に幕張で行われた日本惑星連合大会でのセッションで、この「JAXA 長期ビジョン」が作られた経緯・過程を知る機会があった。それは宇宙科学に限られたものであった

が、「JAXA 長期ビジョン」が、政治家や官僚が読まれていくことを想定して、「JAXAとして宇宙科学をどのようにすすめるか」を記述したもので、その中には、「全宇宙史の解明」というものも目的に含めているとのことだった。この話を聞いたおかげで、「JAXA 長期ビジョン」が何を目指して作られたものかという、自分の中のもやもやしたものが程度整理することができた。こういう背景[2]などがこの冊子に盛り込まれてくれば、出版しても意義あるものになったのではないかと思う。また、こういう冊子的な形で出版するだけでなく、アストロアーツから、毎年出版されている「宇宙年鑑」[3]に掲載するという形を取ると、広報戦略的にもおもしろかったのではないかと思う。

とにかく、「JAXA 長期ビジョン」が出版物となっているのは、わたしの知る限りこの本だけであり、今後の20年の宇宙開発・宇宙利用の方向性が示されている一冊である。とりあえず、この本を片手に、今後のなりゆきを共に見守りたい。

[1] JAXA 長期ビジョンについて

http://www.jaxa.jp/press/2005/04/20050406_sac_vision_j.html

[2] JAXA 長期ビジョンと宇宙科学

<http://www.isas.jaxa.jp/j/forefront/2005/yamakawa/index.shtml>

[3] SPACE GUIDE 宇宙年鑑 2006(アスキー)